

平成 22 年度 第 5 回常任委員会 議事録 (案)

日 時：平成 23 年 1 月 24 日 (月) 14:00～17:00

場 所：土木学会 講堂

出席者：宮川委員長、岸幹事長、石橋、梅原、大津、岡澤、金津、河合、河野、黒田、佐藤 (勉)、島、下村、新藤、武若、堤 (代理：小林保之)、富田、中村、西垣、二羽、橋本、前川、松岡、丸山、横田の各常任委員、佐藤 (靖)、信田、服部、濱田の各幹事、村木 (事務局)

配布資料：

- 5-0 平成 22 年度 第 5 回常任委員会 議事次第
- 5-1 コンクリート委員会次期委員長推薦投票方法
- 5-2 平成 22 年度 第 4 回常任委員会 議事録 (案)
- 5-3 平成 22 年度 コンクリート委員会 一般会計／特別会計 予算
- 5-4 高流動コンクリート配合設計・施工指針改訂小委員会 (273 委員会) 委員構成 (案)
- 5-5 コンクリート構造物の設計と維持管理の連係による性能確保システム研究小委員会 (344 委員会) 委員募集
- 5-6 モンゴル国における構造物の設計基準に関する整備支援調査 現地調査報告
- 5-7 公益信託「土木学会学術交流基金」ジョイントセミナー助成申請書
(国際関連小委員会 (207 委員会))
- 5-8 土木材料実験指導書利用者アンケートのご協力について (依頼)
(土木実験指導書編集小委員会 (205 委員会))
- 5-9 コンクリートの施工性能の照査・検査システム研究小委員会 (341 委員会) 2 期目の公募の提案
- 5-10 若手／中堅実務者のためのコンクリート技術講習会 一示方書を正しく理解するー
(コンクリート教育研究小委員会 (201 委員会))
- 5-11 事務局の支援範囲の見直しについて (ご協力のお願い)

回覧資料：

・エポキシ樹脂を用いた高機能 PC 鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工指針(案) (CL133)
英訳版の修正版 (エポキシ樹脂を用いた高機能 PC 鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工
研究小委員会 (276 委員会))

議 事：

1. 委員長挨拶

宮川委員長より、開会にあたり挨拶があった。

2. 次期委員長推薦投票【資料 5-1】

村木事務局員より、常任委員 41 名、事前郵送投票 41 名との報告があった。宮川委員長および村木事務局員により別室で開票が行われ、投票結果を宮川委員長が板書した。

二羽淳一郎委員が過半数を獲得し、次期委員長に推薦された。二羽委員より受諾する旨、発言があった。

3. 前回（平成 22 年度第 4 回）常任委員会議事録の確認【資料 5-2】

佐藤幹事から議事録（案）が説明された。以下の修正を行い、承認された。

- ・ 二羽委員の代理氏名 山本 → 山村
- ・ p. 3 1500 万 → 1500 万円
- ・ p. 3 ライブラリー → ライブラリー

4. 審議事項

(1) 平成 22 年度予算修正案【資料 5-3】

岸幹事長より以下の説明があった。

- ・ 新規に設立された委託委員会の高流動コンクリート配合設計・施工指針改訂小委員会（273 委員会）およびコンクリートのポンプ施工指針改訂小委員会（274 委員会）の収入は未記載。
- ・ 常任委員会および示方書改訂小委員会の予算額の不足が予想されるので、他委員会との調整を行った。これに対し、以下の発言・質疑応答があった。
- ・ 規準関連小委員会からの予算の移動について、欠席の鎌田小委員会委員長から了解が得られている（橋本委員）。
- ・ 施工編部会の支出実績が少なく記載されているのではないか（河野委員）。
 - 事務局で確認する。

以上により予算修正案は承認された。

(2) 1 種・2 種小委員会委員追加・変更【資料 5-4】

宮川委員長より、高流動コンクリート配合設計・施工指針改訂小委員会（273 委員会）の委員の変更・追加について説明があり、承認された。

(3) 平成 23 年度重点研究課題助成への応募【資料 5-5】

信田幹事より以下の説明があった。

- ・ 課題の提案を求めていたが、提案はなかった。そこで幹事会で課題を設定する方向で検討した結果、既に 3 種委員会として設置が認められている「コンクリート構造物の設計と維持管理の連係による性能確保システム研究小委員会（344 委員会）」の課題にて応募することとした。
- ・ 応募に必要な研究の体制等の詳細は未定であり、幹事会と横田 344 委員会委員長で検討のうえ応募したく、一任いただきたい。

これに対し、以下の発言・質疑応答があった。

- ・ 重点研究課題の対象の 3 点（下記）を踏まえて応募していただきたい。特に国際的な観点を強調するのがよい（丸山委員）。
 - ◇ 分野横断的、総合的課題解決への積極的取り組みにつながる研究課題
 - ◇ 日本の国際競争力の強化に資する研究課題
 - ◇ 「土木」の社会貢献やイメージアップにつながる研究課題
- ・ 対応委員会の委員は、344 委員会が行っている公募で決まるのか？（金津委員）
 - 採択された場合、3 種委員会とは別に、応募時の研究の体制に基づき対応委員会を新たな 2 種委員会として立ち上げる予定。

以上により応募が承認された。

(4) その他

なし。

5. 報告事項

(1) 英文示方書の公開スケジュール

横田委員より以下の報告があった。

- すべての編に対して意見照会を行ってきたところだが、それを踏まえて施工編、維持管理編、ダムコンクリート編は、1月末ごろにコンクリート委員会のHP上で無償公開する予定。
- 設計編は2月中に同様に公開する予定。引き続き意見照会中である。
- 公開後も意見があれば差し替えたい。

(2) エポキシ樹脂を用いた高機能 PC 鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工指針（案）
（CL133）英訳版の修正【回覧資料】

二羽委員より、意見照会の結果、特に意見はなかったため、前回議事録に記載の下記の点に対応した旨、報告があった。

- Definitions をアルファベット順にするのは、和文版も五十音順でないこと、数が少なく視認性に問題がないことから現状のままとした。
- 試験法の英訳は、英訳した本文により材料が理解できると考え、行っていない。
- Standards → Guidelines に修正。
- PC → Prestressed Concrete、PC grout → cement grout に修正。

以上による修正版をコンクリート委員会のHP上で無償公開することとした。公開データは佐藤幹事に送る。

(3) モンゴル国における構造物の設計基準に関する整備支援調査 現地調査報告【資料5-6】

佐藤幹事より、コンクリート委員会での担当の中村国際関連小委員会委員長の代理で出席した現地調査が報告された。

これに対し、以下の発言・質疑応答があった。

- 英語がロシア語よりも普及していないのか？
 - そうかも知れない。しかし、ロシアからの支援が大きいというわけではない。
- 今後はどうすることとなるのか？
 - スケジュールは特に決まっていない。6月にモンゴルの土木学会がある。日本からも出席する予定だが詳細は不明。
 - 土木学会として支援は継続していくべきと考えられている。そのうちコンクリート関連では、建築関連に興味があるモンゴル土木学会をどのように支援していくかが問題。
 - 幹事団の了解を得て、寒冷地という共通点がある北大を中心した協力の検討も行っている。
- 道庁が都市計画でモンゴルと関わっている。
 - 今回の動きとの連携はないが、念頭においておきたい。

宮川委員長より、佐藤幹事を国際関連小委員会の委員に追加することが提案され、承認された。

(4) 平成 23 年度ジョイントセミナーテーマの提案【資料 5-7】

中村委員より以下の報告があった。

- ・ ここ数年行っている申請。アジアだけでなくヨーロッパともジョイントセミナーを行ってきている。今回はタイとのジョイントセミナーを申請した。
- ・ 今回から形を変え、示方書（英文版）の講習会を海外で行う形で申請している。タイコンクリート学会の協力を得ている。
- ・ 採択されなくとも、有志での実施も検討したい。
これに対し、以下の発言・質疑応答があった。
- ・ 土木学会では国際化を推進している。その一つとして示方書の国際普及があり、このようなジョイントセミナーを継続的に実施することが望まれる。
- ・ 実施時期としては新委員長の体制下となるが、ご配慮いただきたい。

(5) 土木材料実験指導書利用者アンケート【資料 5-8】

橋本委員より、アンケートを実施する旨、報告があり、協力が要請された。

(6) Web ラーニング教材「資源循環を目指す環境配慮型建設材料-コンクリート」

宇治委員の代理で村木事務局より、教材は 2 月末までには完成予定との報告があった。

(7) 「部門別セッション名」の修正提案

服部幹事より、意見照会に基づき部門別セッション名の改案として「ライフサイクル（LCC・LCA）」→「ライフサイクル（LCC・LCM）、サステナビリティ」を提案した旨、報告があった。

(8) 第 55 回 材料工学連合講演会 実行委員推薦およびオーガナイズドセッションの提案

服部幹事より、実行委員の推薦およびオーガナイズドセッションの提案があれば、1 月 31 日までに幹事会まで連絡するよう依頼があった。また、提案がない場合は幹事会への一任が依頼された。

なお、開催日時は平成 23 年 10 月 19 日（水）～21 日（金）、場所は京都教育文化センター（京都市）。

(9) 第 3 種委員会 コンクリートの施工性能の照査・検査システム研究小委員会（341 委員会第 2 期）の設置について【資料 5-9】

橋本委員より、第 2 期への継続を行う旨、報告があった。

(10) 講習会・シンポジウム等開催案内・報告

- ・ コンクリート教育研究小委員会（201 委員会）講習会「若手／中堅実務者のためのコンクリート技術講習会」（案内）【資料 5-10】（宇治委員代理で村木事務局）
 - 2011 年 3 月 25 日（金）13:00～17:50、土木学会講堂
 - ・ 構造物の設計におけるコンクリートの収縮の考慮に関する講習会（示方書改訂小委員会収縮ケーススタディー作業部会成果報告）（報告）（下村委員）
 - 2010 年 12 月 2 日（木） 東京、2010 年 12 月 9 日（木） 大阪
- これらに対し、以下の発言・質疑応答があった。
- ・ 吉田賞基金への寄付金を参加費に上乗せする件はどうなっているか？

- 今回は取扱われていない。
- 岸幹事長から宇治委員に確認し、会告が修正できる場合は修正する。
- ・ どのような種類の講習会が吉田賞基金への寄付金に対応するのか？
 - 特にルールは定まっていないので幹事団で検討する。

(11) 事務局の支援範囲の見直しと各委員会の担当範囲【資料 5-11】

岸幹事長より報告があった。

- ・ 別表中、「第Ⅰ種」にコンクリート委員会の1種および2種委員会が、「第Ⅱ種」に3種委員会が当てはまると考えられる。会議資料のコピー等（事前・当日）、食事等の手配などについては、下部組織や3種委員会では委員会自らが対応することが求められている。
- ・ 3種委員会の運営に関する申し合わせを作成し、次回に諮りたい。
- ・ 旅費の要否は必ず連絡されたい。

これに対し、以下の発言・質疑応答があった。

- ・ 旅費の要否の連絡がない場合は不要と考えてはどうか。
- ・ 経費削減のため事務局員の人数が減らされている。電子化を推進すること、直前の大量コピーなどの無理な依頼をしないことなど、配慮する必要がある。

(12) その他

- ・ 整理やダウンロードのために、HPへ公開する書籍・資料等への番号付けが必要ではないか。
 - 学会における ISBN (International Standard Book Number) との関わりを考慮しつつ、コンクリート委員会としての対応を幹事団で検討する。
 - HP 上で無償公開する場合でも何部かは印刷してはどうかとの意見もあろう。印刷はコンクリート委員会の予算で対応可能である。これについても幹事会で検討する。

6. その他

次回幹事会：2011年3月8日（火）（案件の締切りは前日 3/7）

第6回常任委員会（予定）：2011年3月15日（火）14:00～17:00 土木学会

以 上